

版元定ふられし何事も軍に降参せらるる者又異
儀ありけりて是より逆尋せらるる申さしけりては儀あり
あつと會議置たりといふも義政公杖柱を頼まれし由
藤太に討せしと民部はけりや誰ぞとねしと龍城殿を
つゝ獲りしと我走りと民部若く降参しと相模守山
元へゆり右の趣村森申しけりて義走は脱去服し居延ち
とふとれに方計策令始めたるまといひたり就中けり
の謀術もしとてか増と下されし則民部山形へ参り
此目見せしけりて決約未の如く義政知れし不残不領一万

八千石安堵の儀書と賜り急ぎ上りしに降参内務せし儀
是より討つる由伝せられけりて無難なり内務女
川下女入らるるに左郷へ降参しに女の子と懐中へ抱き
以て歎き居たりと云ふ民部山形より降参内務女子は同類
隠匿くにつてと曲るなりと許の心事は義政に望み分と領の
は解りしに言は女房上の山領より見ゆる成澤の御安
美の寺より福院へ歎入りけりて住持甲斐に心算
く法合けりて是の心地より夫より住持嬰子を懐に入
仙是に行きし所の者なりけりて此の事ありけりて年月を経て